

文・写真 木村 雅俊(枚岡ネイチャークラブ)

枚岡公園は大阪府にある19の府営都市公園の一つで1938年(昭和13年)に開設されました。金剛生駒国定公園に属し、面積は約43.8ヘクタール、豊浦川の溪谷を中心に額田山と枚岡山の尾根筋を含むアクセスのよい公園です。それぞれの中腹には展望台があり、そこから大阪平野が一望のもと望めます。観察会では、よく大阪城探しなどして目の準備体操などもしています。公園の南側には枚岡神社が鎮座し、河内国一ノ宮として、また奈良の春日大社の元春日として歴史の重みを感じさせる神域でもあります。古くから整備された公園なので、それほど珍しいものはありませんが、普通の大阪の自然植生が保存された身近な自然が楽しめます。高木層には、アラカシ・エノキ・クスノキ・クヌギ・クロガネモチ・シロダモ・ナナミノキ等が自生し、中木層には、イヌシデ・アワブキ・カキノキ・ヤマザクラ・ハゼノキがあります。低木層にアオキ・イヌビワ・カマツカ・クサギ・ニワトコ・ムラサキシキブ・マユミ・ウグイスカグラなどが多いです。

枚岡公園イラストマップ
(公園パンフレットより)

観察会風景(2017/11)

文・写真 夏原 由博(会長)

2025国際博覧会が開催される大阪市の人工島夢洲は浚渫土、廃棄物などの処分場です。埋立途中に池や塩生湿地、砂礫地などさまざまな環境ができ、多くの野鳥の繁殖や渡りの中継地となりました(図-1)。最大で1500つがいのコアジサシが繁殖し、2004年から2021年の調査で通算で51種のシギ・チドリが、また、1996年には14,432羽のホシハジロが記録されています。ホシハジロの個体数はラムサール条約登録湿地とする条件を満たしています。このように野鳥の生息場所となっているため、2014年に大阪府レッドリストで生物多様性ホットスポットのAランク(最重要地)に指定されました。埋立地にこんなに多数の水鳥が訪れるのは、もともと淀川河口域に干潟があったからです(図-2)。干拓や埋立地の造成によって、かつてあった干潟はほとんど消失しました。しかし、渡りをする水鳥は河口のある湾に餌の多い干潟があることを知っているようです。そのため、人工であっても湿地ができると再びやって来るのです。万博のレガシーとして、湿地を再生して人と自然の共生の場とすべきです。



図-1 夢洲で繁殖するセイタカシギ

図-2 江戸時代の淀川河口
(国立国会図書館ウェブサイト 大阪町中
並村々絵図を加工して作成)